

令和3年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属天王寺中学校

1 附属天王寺中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺中学校

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員448人(1学級: 36人)

(4) 幼児・児童・生徒数

431人(男子216人・女子215人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 19人(うち, 臨時的雇用6人,),
非常勤講師 5人
事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員)1人

2 附属天王寺中学校の特徴

質実剛健の校風のもと, 生徒一人ひとりがお互いの多様性を尊重し合う中で, 主体的に協同的な学びを展開していくことを重視し, 将来の市民社会をリードしていくための“生きる力”の育成をめざしている。
天王寺型中高連絡進学に基づく6年一貫教育の研究と実践を続けている。

3 附属天王寺中学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となり, 教育の理論と実践に関する研究を行うこと。
- (2) 教育に関する理論を実践し, 授業や研究会で実証すること。
- (3) 大阪教育大学の教育実習機関として, 効果的な実習活動を行うこと。
- (4) 大阪教育大学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属天王寺中学校の学校教育目標

- ・ 正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心を持ち, 透徹した判断力を養う。
- ・ 強固な意志を持ち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。
- ・ 他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- ・ 社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属天王寺中学校の学校教育計画

1. 生徒の学力と, 「生きる力」を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。また, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動をする。
2. 生徒の活動を支えるための, 教育環境を整備・充実させるとともに, 生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り, 教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
E		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ・強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ・他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ・社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。	■教務部 校務支援システム導入を機に、さらなる中高の連携のあり方を工夫する。Google-workspace(クラスルーム等)の運用の支援を行いながら、自宅での学習環境を整え、学習の自立性・主体性をはかる。	(中高)学習支援においては、すべての教員がGoogleクラスルームを十分に活用することができている。マイクロソフトのチームスを用いて、中高における時間割の共有等も行っている。	(中高)チームスを用いてより円滑な中高の教務情報の共有を図る。	B	中高の連携に関して評価されているが、生徒の自宅での学習環境に関する達成状況、改善点が不明。	A	生徒の自宅学習の実態を調査する必要がある
	■生徒指導部 学芸会や音楽会等の行事や議会運営等の学校生活のあらゆる場で、生徒の主体的で自立的な活動や自治を支援し、生徒の成長場面を保障するとともに、昨年度の知見を生かし、十分な感染対策と行事開催を両立させ、生徒の達成感や自己肯定感を育むような行事開催の方策を提案し主導する。	感染対策と行事目標の達成の両立を掲げ、中学では1年ぶりに学芸会を開催した。声優システムの試行などの柔軟な提案と緻密な準備で学校行事をリードし、生徒の活動場面の保障に貢献できた。音楽会も、これまでの経験や実績をもとに開催する方向で取り組みを進めている。	刻一刻と変化する感染状況を見極め、生徒の安心・安全を確保しながら、望ましい教育活動を企画する。制約のある中でも最大限の教育効果が得られるよう、引き続き柔軟な発想で行事運営を進める。	A	・行事実現にむけて先生方の柔軟な対応ふくめ熱意が伝わってきました。また、子供たちもその指導やルールをよく守り、ひとりひとりの自覚がすばらしいと感じた。 ・学芸会での声優システムの実施など、コロナ禍においても工夫して行事を実施できた	A	特記事項なし

5

1

2

<p>(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。</p>	<p>■進路指導部</p> <p>3年間を通して、どのような問いを投げかけるのか？など、各学年の教員が進路指導における最適解を考えるための資料を残していくとともに、必要な改善を加えながら、各内容をブラッシュアップしていく。再度共有して資料化。「中高連携」の要素も検討して組み込む。</p>	<p>中高連絡進学の記事や進め方について職員会議やTeams上で情報発信を行い、共有を図り、記録に残した。</p>	<p>固定化した方がよい取り組みなどを今後検討していきたい。また新たな試みなども増えたが、引き継いでやっていくのかなどの検討はあまり着手できなかったため、今後行っていく。</p>	B		A	特記事項なし	3
	<p>■国語科</p> <p>自立した読書人を育てることを目標に、授業内に思考・判断・表現の過程を充実させ、主体的な学びの機会を創出する。</p>	<p>ゲーム作成や授業を構成する活動を通じて、個々の学習者が主体性を発揮し、思考・判断・表現を行う機会を創出する方法を提案することができた。</p>	<p>各個人の語彙の習得や読みの力の育成が、他の場面でどのように発揮され、他の活動と有機的に結びつくかどうかを検討する必要がある。</p>	A		A	特記事項なし	4
	<p>■社会科</p> <p>社会科共通の学習の到達目標を考え、生徒自身が自立的に学習を進めていくことができるように指導を行っている。また、その際に多角的な視点から社会的事象について思考する能力の育成を図る。</p>	<p>ICT機器の活用により生徒自身の自立的な学習の深化を促す、授業が展開できている。配信だけでなく、ICTを用いてディスカッションなども行っている。</p>	<p>生徒が主体的に学習を進めていく手段としてICT機器の活用方法を今後も、検討しさらに実践をすすめていく必要がある。引き続き中高6年間の学びにおいて、自立的な学習とは何かを、継続して議論し連携を深めていく。</p>	B		A	特記事項なし	5

<p>(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。</p>	<p>■数学科 前年度の取組みより、Classroomを用いた問題・プリント配付を行うことは今年度も継続して進める。1年を通してオンラインで問題・資料配布を行うことで、学校での学習だけでなく自宅学習も充実を目指す。家庭でのネットワーク環境に差があるので、どの生徒も適応できるように柔軟に取り組み、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。</p>	<p>Classroomを用いた問題・プリント配付だけに留まらず、補充教材や授業を撮影した動画などの配信も行い、学習保障を行うことができた。</p>	<p>Classroomを用いた自宅学習をより促進させようと計画していたが、教材研究や校内業務の合間を縫って行う業務ということもあり、生徒にとって十分な教材提供には至らないときがあった。</p>	B	<p>・目標であるネットワーク環境の差による取組み内容がよくわからない。目標である自律的な学習にどこまでいかすことができたかの達成度も確認しておくのが望ましいように思われる。</p>	A	特記事項なし	6
	<p>■英語科 学習意欲を促すような課題設定を行い、生徒自身の目標や計画に対して継続的に振り返りながら自己修正していけるように支援する。また、一律の指導だけでなく生徒自ら学習方法や学習内容を選択できる場面を用意する。</p>	<p>課題の大小を問わず、内容や方法に生徒一人ひとりの自由選択の余地をあえて残すことで、意欲的な取り組みになるよう工夫した。年間を通して、様々な場面で自身の目標設定とその振り返りを書かせたことで自己内省の機会を創出した。</p>	<p>自立性や主体性をさらに高めるためにどのような工夫をしているか、教員間の共有が少なかったため、今後は中高での普段の会議から話題にしていきたい。</p>	<p>・オリジナルのリスニング素材の配信や、自学自習に役立つサイトの提案など、細やかな指導をいただけただけ。確実に英語に対する学習意欲が高まったと感じる。 ・振り返らせるなどの取組みは効果はあったと思うが、自宅学習時の取り組みの記載がほしい。</p>	A	A	特記事項なし	7
	<p>■技術家庭科 単に知識理解だけでなく、技能獲得を伴った実践教育の部分がある。それゆえ、コロナ禍の状況下では、リモートを活かした実践も期待されるが、家庭での学習は、知識理解に止め、実践は残された時間を有効に利用できるように、工夫して取り組みたい。</p>	<p>コロナ禍の状況下で、一時的にリモートを活かした実践も期待されたが、家庭での学習は、知識理解に止めた。学校での実践は残された時間を有効に利用できるように、工夫して取り組むことで、支障なく作品や実践授業ができた。</p>	<p>コロナ禍の状況下は、今後も継続される可能性がある。それゆえ、家庭での学習を、知識理解に止めることができない可能性もある。今後は、学校での実践も短い時間でも実施可能になるように。授業の題材を工夫しなければならないであろう。</p>	B		A	特記事項なし	8

(1)生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。特に、自宅学習における自立性、主体性の育成を図る。	■美術科 自己の表現の在り方や鑑賞における感じ方に気づき、自己分析や他者の作品鑑賞する機会を授業に取り入れ、さらに潜在する表現や鑑賞の能力を高める。	発表会を通して、他者からの気付きや新しい学びができ、また自己のコンセプトが深まった。グループ制作では、対話を通した共働的な学びが展開された。学校のカリキュラムと自宅での課題がバランスよく組み立てられた。	今回、教科等横断型授業を中1～中3で取り入れ、単一教科では、指導上わからない気付きがあり活用していきたい。	A		A	特記事項なし	9
	■保健体育科 課題解決的な学習過程で授業を進める中で自主・自律的な行動能力を高める。自宅でも授業について知ることができるよう紹介する。	生徒が主体となって自主的に活動する機会を多く取り入れることができた。一つの種目にとらわれず、多くの生徒が積極的に運動に参加することが出来ていた。	がんばりすぎてケガをするといった状況もあり、自分の体力を知ったり、セルフコントロールが必要な生徒もおり、積極的な声掛けが必要であると感じた。	A		A	特記事項なし	10
(2)互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力を十分に発揮させる。	■生徒指導部 全教員が生徒会指導、部活動指導、議会・委員会の運営等に積極的に関わる体制を構築し、分掌として組織的に支援する。校種や発達段階に応じた指導体制を確立し、生徒一人ひとりが成長し活躍できる学校を目指す。	生徒会活動（委員会含む）や部活動などの指導において、丁寧な説明と資料で全教員の生徒指導を支援することができた。	生指部の丁寧な支援体制が教員個人の自立的で主体的な生徒指導を阻害しないよう、今後もバランスに留意する。	B	・改善点も明確であり、より具体的な行動として次年度にいかしてほしい	A	特記事項なし	11
	■健康人権教育部 「国際理解」をテーマに人権教育を行い、元JICA職員を招聘し、講演をしていただいた。	発達段階に応じた課題設定はできたが、中高6年間における系統的なカリキュラムについてはまだ作成できていない。	中高6年間における系統的なカリキュラムを作成するための会議を定期的に設けていく必要性を感じている。また、来年度もコロナによる制限が続くようであれば、リモートによる講演会の開催も視野に入れて実施していきたい。	B		A	特記事項なし	12

<p>(2) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力量を十分に発揮させる。</p>	<p>■研究部 自由研究などの課題研究だけでなく、教科教育においても課題や問題の発見・提起を生徒が主体的に取り組む。それを出発点として「協働的」で「深い学び」をめざす教育方法の開発を、学校組織として取り組む。</p>	<p>「協働的で深い学び」をめざす授業がより多く実践されている。しかし、これらの取り組みは、教科単位であり、学校全体とはなっていない。そのため、研究推進日では教科を混合し情報交換する場を設定した。</p>	<p>教科間の枠を超えた情報交換の機会をさらに増やすとともに、学校全体の組織的な取り組みにする必要がある。</p>	B		A	特記事項なし	13	
	<p>■国語科 言語活動によって、各人が「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の活動に取り組む機会を設定し、国語力を育てる。お互いの活動を比べ、評価することによって、国語への興味関心を育てる。</p>	<p>各授業者が授業内に多くの言語活動を設定し、4領域の能力の育成を目指した授業を展開することができた。また、相互評価の機会を多く設定することにより、より主体的に授業に取り組む学習者が増えた。</p>	<p>言語活動ありきにならない、読解力の育成や知識獲得を担保する授業展開を模索する必要がある。上位学年では高度な文章を主体的に読解しようとする姿勢の獲得について議論を進める必要がある。</p>		A		A	特記事項なし	14
	<p>■理科 実験や観察などを多く実施し、「協働する能力」や「個々の資質」を伸ばすための授業実践に取り組む。</p>	<p>各科目でこれまで行ってきた生徒の協働的な教育活動をChromebookなどのICT機器等も活用して実施した。オンラインでも対応可能な教材開発や効率化、質の向上に取り組んだ。 (例、課題作成や発表にChromebookを活用。振り返りにGoogle Classroomを活用。など)</p>	<p>ICTの活用により、効率化や共有のしやすさは向上している。伸ばす能力の体系化を十分に行えば、よりいっそう効果が高まると考えられる。</p>		A		A	特記事項なし	15
	<p>■音楽科 演奏発表機会の拡充…他者と協働して音楽を創りあげる経験を通して、自分自身を客観的に捉え、独りよがりでない自己表現力を身につけることができる授業を展開する。</p>	<p>グループでの発表を多く取り入れ、中高どの学年においても発表する機会を大切に、アンサンブルを通して生徒自身が自己表現する喜びを実感できるように工夫して授業を展開した。</p>	<p>コロナ禍においてマスク着用品がスタンダードとなり、お互いの顔の表情が半分見えない中で授業が続いている。表現力を育む上で表情はとても重要な要素であるので、どのようにカバーしていくのが課題である。</p>	<p>・コロナ禍でのマスク着用が困難ではあるが、2年目であり本課題に対する取組み姿勢のコメントがあってもよいかと感じた。</p>	A		A	表現力を育むための方策について引き続き検討していく	16

<p>(2) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、協働を通じて個々の生徒の力を十分に発揮させる。</p>	<p>■技術家庭科</p> <p>単に知識理解だけでなく、技能獲得を伴った実践教育の部分がある。学校での実践を通して、同じ作品や作業でも、個々でやり方の違いや個性が出てくる。個人の作業ではあるが、班などのグループで教え合うことで、協働学習の要素が出てくるものと考え</p>	<p>授業を通して、知識理解だけでなく、技能獲得において、班などのグループで教え合うことで、協働学習の要素が出てきて、非常に教育的評価も向上した。</p>	<p>授業を通して、知識理解だけでなく、技能獲得において、班などのグループで教え合うことで、協働学習の要素が出てきて、非常に教育的評価も向上することが分かったが、それに向上させるには、実習題材を工夫した実施を考えていかねばならない。</p>	B	A	特記事項なし	17
	<p>■英語科</p> <p>協働学習を取り入れ、互いを尊重し合う姿勢を育てる。多様な価値観を持った一人ひとりが意見を交流し、個々が特性を活かして協力し合うことで、生徒が自己肯定感を高められるようにする。</p>	<p>協働学習を取り入れ、生徒同士で対話を重ねながら合意形成や意見交流をさせたことで、1人で取り組む以上の学びを生み出す経験をさせることができた。</p>	<p>活動の目的に応じて適切な授業形態を選択し、取り組みをさらに活発にさせるための仕掛けを工夫したい。また、活動後にはより効果的なフィードバックを与えられるよう教科で研鑽を積み重ねていきたい。</p>	A	A	特記事項なし	18

6 附属天王寺中学校の令和2年度 重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 ・強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ・他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ・社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。	<p>■教務部</p> <p>校務支援システムへの移行が円滑に行えるよう教務システムのさらなる改良を行うとともに、教員に周知徹底する。</p> <p>校務支援とは別立ての連絡進学に係る帳票の作成を進路指導部と連携しながら作成し、校務支援システムとの連携方法を整理することで、進路指導への支援を行う。</p>	<p>校務支援システムを用いて出欠の管理や成績処理を行った。システムの移行は円滑に行われつつある。</p> <p>連絡進学のシステムと連携した帳票について運用を行った。</p>	<p>校務支援システムのさらなる活用のあり方を進路指導部とも連携して考える。</p>	A		A	特記事項なし

9

<p>(1) 将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。</p>	<p>■技術家庭科 中学校で唯一教科の内容に、幅広い進路意識を養うことができる科目であると考え。単に、高等学校→大学→大学院という学力だけの進路でなく。中卒からいきなり社会に出ても有効な職業（料理人・大工・技能職人など）があることを、授業を通して指導することがかかろうであると考え。</p>	<p>中学校で唯一教科の内容に、幅広い進路意識を養うことができる科目の特徴を活かす指導を実施した。中卒からいきなり社会に出ても有効な職業の例として、料理人や宮大工や技能職人（深絞り技術）などを紹介し、幅広い進路意識を育成した。</p>	<p>中学校で唯一教科の内容に、幅広い進路意識を養うことができる科目の特徴を活かす指導を実施した。さらに具体的には職業の例として、料理人や宮大工や技能職人（深絞り技術）などを紹介する上で、現実的な企業名を紹介する必要があると考える。</p>	C		A	特記事項なし	20
<p>(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。</p>	<p>■庶務部 雨漏り、設備の不具合など、事務室と連携をとって改善を図る。</p>	<p>教室のドアなど危険個所を中心に、校務員さんや事務室と連携して修理を実施した。</p>	<p>技術室の椅子の更新、理科教室のカーテン設置など、生徒の学習環境の改善を進めてもらうように要望をしている。</p>	A	<p>改善点での要望が通っているのか、予算的な事など何か原因で実施に至っていないのでしょうか。その原因の記載があるとより明確でよいかと感じました</p>	A	特記事項なし	21
	<p>■健康人権教育部 学校が有する防犯、災害リスクに対して、生徒・教職員がリスクを共有し、予防的行動を適切に行えるように、訓練やマニュアルの整備を行い、生徒・教員の減災・防犯意識を高められる安全教育を推進する。</p>	<p>避難訓練における実施要項の変更や12月の緊急地震速報発令時の対応を踏まえて、マニュアルの改訂を進めている。また、コロナウイルス感染症の影響のなかでも精選して避難訓練や防犯・防災を考える学習を教科連携で行い、防災意識の向上に努めた。</p>	<p>コロナウイルス感染症や避難訓練などでの実際の行動を踏まえて、マニュアルについても避難方法の見直しや各種災害における対応の見直しを次年度以降のマニュアルに反映させていく。学校からの安否情報だけでなく、学校不在時における生徒の安否情報を生徒や保護者からメール送信してもらうシステムを構築中。来年度から施行予定である。</p>	B	<p>コロナ禍に対応するための対策改定は難しいと思いますが、メール送信だけでなく、様々なツールの活用もお願いします。</p>	A	特記事項なし	22

<p>(2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。</p>	<p>■理科</p> <p>「安全」と「感染防止」への意識を高める指導を引き続き徹底する。</p> <p>毎週の中高合同での教科会議において、気づきを共有し、より安全性の高い授業を実施する。</p>	<p>講義室と実験室に除菌用アルコールなどを4名に1つずつ設置するなど、設備面での対応をした。「安全」「感染防止」の指導面での対応も引き続き行い、問題なく授業実施を行えた。</p> <p>毎週の中高の教科会議で、情報共有をしながら、集団として意識をしながら実践ができた。</p>	<p>今のところ大きな課題はないので、今後も継続していく。</p>	A		A	特記事項なし	23
	<p>■保健体育科</p> <p>老朽化している体育施設の補修や器具等の安全チェックを行い、物品の管理、整理整頓を行う。</p>	<p>中高それぞれの倉庫に分けることで整理整頓がしやすくなり管理もしやすくなった。</p>	<p>体育館の雨漏りや倉庫の扉が破損しているなどの状況は、解決できていない。</p>	A		A	特記事項なし	24
	<p>■音楽科</p> <p>昨年度に引き続き、音響機材や多くの楽譜等物品の整理、置き場所の変更・廃棄を進め、生徒・教員双方が利用しやすいように音楽室と音楽研究室の整備を進める。</p>	<p>昨年度に引き続き、事務室や校務員と連携しながら、物品の整理・置き場所の変更をすすめた。</p>	<p>本校の音楽室には楽器庫がないため、楽器を安全に保管する場所がない状況が続いている。事務室や大学と連携し、引き続きこの状況の改善を具申し、生徒たちが安心して音楽活動できる環境を整えていきたい。</p>	B		A	特記事項なし	25

6 附属天王寺中学校の令和2年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. 学校独自の取り組みを通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取り組み内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る	■教務部 ICTの活用推進をめざし、手軽に授業内での活用ができるよう、一人一台体制の方向性について検討をすすめる。	庶務部や生徒指導部等と連携しながら一人一台体制の構築に向けた準備に取り組んだ。	一人一台配布に向けて管理体制の完成を行う。	A		A	特記事項なし

<p>(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る</p>	<p>■生徒指導部</p> <p>生徒指導におけるICT活用を模索し、生徒会活動、行事、部活動などの具体的な場面でICT活用を実践する。また、情報モラル研修などを企画し、生徒が安全で正しくICTを活用できるよう、適切な支援を行う。</p>	<p>役員会の企画調整、各種原稿の提出、部活動の練習での利用や健康観察記録等、様々な場面でICT環境を積極的に活用した。また、夏期休暇前に外部講師を招聘して情報モラル研修を開催し、特に中学生で懸念されるSNSやネット利用に関する注意喚起を行った。</p>	<p>ICT活用の活用場面では、発信が優先される傾向にあるが、情報の集約やその活用にも傾注していく。機器操作に不慣れな教員へのサポートも継続して行う。</p>	A		A	特記事項なし	27	
	<p>■庶務部</p> <p>①ケーブルなどICT機器の管理を行う。 ②新Googleアカウントの配布に向けてネットワーク利用規約を作成する。</p>	<p>①生徒用アカウントのログイントラブルに対して適宜対応し、解消することができた。 ②次年度にデバイスを生徒へ貸与するための準備を進めた。</p>	<p>①デバイス管理設定など、生徒個人々の細かなトラブルに対応する必要があるため、専門家の配置を希望する。 ②附属学校課・教務部など他部署と連携し、ICT環境の改善を図る必要がある。</p>		B		A	特記事項なし	28
	<p>■研究部</p> <p>天王寺地区のテーマであるSTEAM教育について、研究推進日や小中高研究部会を活用して、教員研修や情報交換の場を設定する。さらに、複数教科による教科横断型の教材開発を検討する。</p>	<p>STEAM教育に関する講演会や小中高研究部会での事例の紹介などを行った。また、教育研究会でもSTEAM教育をテーマとして講演会を開催し、教員間で一定の理解が定着した。また、複数の教科が、教科横断を重視した取り組みを発表した。</p>	<p>今後、さらにICTの活用を進めるとともに、教科横断型のSTEAMから教科統合型の実践に取り組む必要がある。また、評価についても検討する必要がある。</p>		A		A	特記事項なし	29

14

<p>(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る</p>	<p>■数学科</p> <p>日常にある事象を数学的に解決できるようにし、思考力が養えるような授業展開を検討していく。また、ICTを活用すべきである単元をより明確にし、視覚的に理解させたり、深く考えさせることが出来るような教材の開発や研究を進める。またその過程で教科横断的な学習指導も見据えて教科で検討する。</p>	<p>数学的探究活動を軸とした教材を模索し、各教員が実践した。代数学・幾何学・統計学やコンピュータなどの数学固有の分野だけに留まらず、教科横断型の授業を実践した経験を蓄積できた。また、ICTを用いて数学的な見方・考え方を楽しむことをきっかけに深く考えさせることが出来る教材開発を進めることができた。</p>	<p>複数の授業実践は出来たが、新たな教材を考案するための時間がかかり、授業実践前に教科で検討する機会を持つことができなかった。授業実践後、教科会や推進日を用いて共有することはできたため、来年度への活動に繋げていく。</p>	A		A	特記事項なし	30
	<p>■理科</p> <p>中高を通した学びの体系化について検討する。「資質・能力の育成」を図るために、中高のカリキュラムマップを作成し、「中高連携」や「科目横断」の方法を検討する。また、毎週の科会は必ず中高合同で行い、授業実践や研修の情報なども共有する。そのような機会を活用し、個々の授業改善や、中高および科目間での連携などを検討し、新たな実践を行う。</p>	<p>学びの体系化を中高で行った。毎週の中高の教科会議でも意見交換をしながら実践についても共有し、様々な手法を試している段階である。</p>	<p>次年度は、実践と協議を継続しながら、体系化したものの妥当性を再検討し、ブラッシュアップしていく。</p>	<p>「科目横断」に対する達成状況が不明</p>	B		A	達成状況をよりわかりやすく記載する。

<p>(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る。</p>	<p>■英語科 非認知能力の育成を念頭に授業内外でのICT活用を推進し、自ら学び続ける生徒を育てる。</p>	<p>全教員が共通して使用しているGoogle Workspaceだけでなく、ソフトウェアやアプリなども自由に試しながら生徒に多様な学び方を提供することができた。</p>	<p>ICTの活用について、効果を個々が試し、検証して、今後も教員間で共有していきたい。</p>	B		A	特記事項なし	32
	<p>■音楽科 異学年集団による音楽授業を試行し、その効果と課題を探る。</p>	<p>中学1年生と2年生を対象に合同歌唱単元を実施した。同じ学年だけでは生まれない「対話的で深い学び」がみられ、歌唱に対する意識が高まった。</p>	<p>中高一貫校である強みを生かし、次年度は中学と高校の混合音楽授業を試行し、その効果と課題を探りたい。</p>	A		A	特記事項なし	33
	<p>■技術家庭科 「防災学習」を軸として教科横断的な学習指導に取り組み、生活の中に当たり前に「防災」の意識を持つ事を目的として授業を進める。</p>	<p>理科・技術・家庭と連携して「防災学習」に取り組み、生徒自身にも日常から「防災」を意識する重要性を考えさせることができた。また天王寺区役所や天王寺区消防署とも連携して体験的な学習を実施できた。</p>	<p>次年度は、今年以上の教科の連携を図り、より実践的な「防災」の意識の獲得を図りたい。</p>	A		A	特記事項なし	34

<p>(1) 現代的な学力観に対応した教科指導法の工夫と、カリキュラム全体の改善を図る。また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探る</p>	<p>■保健体育科 ダンス等の種目においてタブレット等を利用し動画を撮影し、動きを改善することに役立てるなど、ICTを有効活用できるよう授業実践していく。</p>	<p>ダンスやなぎなたの授業では、タブレットやプロジェクターなどを利用し、生徒がより理解しやすい授業を工夫することができた。また、持久走では大学と連携し、ICTを活用した運動中の身体情報可視化の効果を検証することができた。</p>	<p>大学や他機関と連携した授業の取り組みを今後も継続していきたい。</p>	A		A	特記事項なし	35
	<p>■美術科 大阪教育大学と連携し、タブレットで様々なアプリを用いた新しい授業の研究と推進を図る。</p>	<p>映像メディア表現題材の研究が進んだ。また、3年間を通した比較研究も進み、3つの題材で検証し、まとめることができた。</p>	<p>個別最適な学びからICTを活用する共働的な学びに深める題材の内容が確立しつつあるので、さらに研究と実践を進め、教育効果を高めていきたい。</p>	A		A	特記事項なし	36
<p>(2) 社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取り組みを進める。</p>	<p>■美術科 国々における文化、芸術、表現の違いなどを学ぶ機会を設け、その理解を深め、様々な考えを共有することで、違いや個性を尊重し合いながら、伝統文化や自らの表現を形成し、創造する力を養うことで、人格形成の一翼を担う授業を目指す。</p>	<p>中3とインドのシヴ・ナダースクール9年生によるオンラインでの作品鑑賞交流会を1月に予定していたがコロナのため中止となった。が、インドの方に見せる「日本の四季」を題材とした良い作品ができ、身の回りの季節の美しさや伝統行事などに意識が高まった。</p>	<p>R元年度と今回、2度zoomによる交流を計画したが、どちらもコロナで実現できなかったため時期を検討した。ただ、違う方法で交流ができた。この方法は間接的だが、時差を気にせずできるので、これからも活用していきたい。</p>	A	自己評価Aだが、zoomでの開催が実現できなかったとあり、A評価とまで読めなかったためB	A	特記事項なし	37

(2)社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向けた取り組みを進める。	■国語科 生徒の発達段階に応じた言語能力の獲得や、教材への向き合い方、評価の方法を検討し、中高で継続した指導の実践を試みる。	小中校で複数の実践交流会を行い、報告後の質疑応答も含め、発達段階に応じた教材への向き合い方、評価の方法を検討することができた。	4領域や評価の観点ごとに応じた小中高でのつながりや実践の在り方について検討を進め、共有していく必要がある。	B		A	特記事項なし	38
	■社会科 中高連携や他教科との連携を通して、多角的な視点で社会事象を認知し、多様性に着目して自らのテーマを設定し、積極的に表現・発信できる生徒の育成を図っていく。	それぞれの教員が、多様な授業形態を積極的に試行し、生徒自らが自分の考えを議論しながら社会的な事象に対して多角的な立場・視点から説明しようとする能力の育成につとめた。	コロナウイルスまん延の状況でグループディスカッションやフィールドワークの実施など学習方法に制約がある中でも、生徒が多様な立場や視点を育成できるような場の設定や工夫の必要性を感じた。	B		A	特記事項なし	39
	■英語科 本物との出会いを通して社会課題について学び、考え、行動する実践的意欲を持った生徒を育てる。 中高で一貫した一つの指標「附属天王寺英語科CAN-DOリスト」を作成する。研究集録に上記に向けて情報共有したこと等を研究集録にまとめる。	映画や海外との交流、講演会など教科書を超えた学びを提供した。また、中高それぞれでCAN-DOリスト作成に取り組む研究集録を執筆することができたが、今年度の目標であった中高で一貫した指標を作るまでには至らなかった。	中学と高校の接続について協議し、一貫した指針を持てるようにしたい。作成したCAN-DOリストをもとに授業実践を行い、共有していきたい。	C	・感想になりますが、附属天王寺の教育を知ることによって、このような取り組みを保護者が知る機会も是非お願いしたいと感じました。 ・学年によって段階的に学びの機会が与えられているならば、具体的な列挙があれば、分かりやすい。	A	発達の段階や学年進行による、到達目標をよりわかりやすく生徒や保護者へ伝える。	40

<p>(3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進める。</p>	<p>■研究部 教育研究会や研究集録を、日常的な研究成果の発表・発信の場とする。本年度は、コンピテシーを軸として、中高のつながりを意識したカリキュラム表を作成し、『附属天王寺型一貫教育—何から始める? 連携の視点を探る—』をテーマに教育研究会で公開するとともに、研究集録の充実を図る。</p>	<p>教育研究会では、中高一貫をテーマとして実施した。参加者の事後アンケートでは、とても満足55%やや満足41%また、自校の実践に役立つかの問いには、とても役立つ54%、どちらかという役立つ39%で好評であった。しかし一方、参加者がオンラインのわりに少なく、時期等の要因も考えられるが、検討すべき課題である。研究集録に関しては、例年になく多くの投稿があった。加えて、本年度から、研究会での発表者は執筆をお願いすることになり、充実したものとなった。</p>	<p>研究会において、参観者を多くする必要がある。また本年度、教科で作成したコンピテシーを軸としたカリキュラム表を横方向にも広げて、中高のカリキュラム表へと発展させる。</p>	A		A	特記事項なし	41
	<p>■健康人権教育部 大学や地域の防災関係者と連携し、学校防災力だけでなく、地域特有の災害的特徴を踏まえて、安全教育の構築および実践について研究を進めていく。</p>	<p>教科単位では、天王寺区役所や消防署と連携して教科横断的な防災学習を展開したが、教員対象の防災研修などはコロナウイルス感染症の影響などで本年度は実施できなかった。</p>	<p>これまで以上に、他の行政機関・研究機関との連携を図るだけでなく、教員間の防災意識の向上のためオンラインなども活用した教育実践を行っていきたい。</p>	B		A	特記事項なし	42

<p>(3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進める。</p>	<p>■技術家庭科</p> <p>教育研究会を通して、地域の技術・家庭科の先生方と交流を持ち、「防災教育」をテーマとした新しい実践を広めて行きたい。特に「防災教育」は、政府がどの学校でも実施して欲しいとの意向があり重要な教育的視点となりうるテーマである。</p>	<p>教育研究会をテーマにすることにより、技術・家庭科と理科教育とのタイアップにより、1つの教科では実現しにくい新しい実践が可能になった。それにより、地域にも「防災教育」をテーマとした新しい実践を広めることができた。</p>	<p>教育研究会をテーマにすることにより、技術・家庭科と理科教育とのタイアップだけでなく、社会や総合的学習の時間も含めた取り組みの可能性があると考える。</p>	B	<p>防災教育は今後も他教科とのタイアップや地域、家庭の連携など色々と取り組んで頂きたいです</p>	A	<p>特記事項なし</p>	43
	<p>■音楽科</p> <p>音楽を通した高大連携を進め、本校生徒による音楽性の高い演奏を多くの方に聴いていただく機会を創出し、ホームページ上で発信する。</p>	<p>大学授業と連携したコンサートを校外のホールで実施し、好評であった。また、音楽授業における取り組みを本校・大学ホームページで広く発信した。</p>	<p>コロナ禍という制約があるが、保護者や地域の方々に本校生徒が心から音楽を楽しんで演奏する姿を、生でみて頂く機会を設けたい。</p>	A		A	<p>特記事項なし</p>	44